

出雲の古代たたら製鉄遺産

ここ中国地方では、1000 年以上も前からさまざまな形のたたら製鉄が行われてきた。製鉄の最も基本的な原料のひとつである砂鉄が地元で豊富に採れることも、この地域が鉄を作り続けてきた理由の一つである。。一時期、この地域の製鉄業は、国内で生産される鉄の 80% 近くを占めていた。

産業は地域の文化と社会を形成し、その存在は地域の自然環境に著しい影響を与えた。鉄は一年中、この地域一帯で大規模に生産され、砂鉄や木材などの資源は枯渇しないように注意深く管理されなければならなかった。木炭の生産に必要な木材の場合、計画的に森林を伐採しては再生させた。このような広範な産業の影響で、地形が永久的に変化したケースもある。砂鉄を採取する過程で山全体が平らになり、平らになった地形は農業用の畑に変えられた。

2016 年には、安来市、雲南市、奥出雲町の 3 市町にまたがる遺跡が、たたら製鉄の文化拠点としてまとめて日本遺産に認定された。安来の和鋼博物館、金屋子神社のほか、雲南の菅谷高殿、奥出雲の日刀保たたらなどがある。このほか、近隣のたたら製鉄遺産に関する詳しい情報は、この展示で見ることができる。